

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 5 号:2009 年 5 - 6 月期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済動向

2009 年第 1 四半期の社会・経済発展実績

ウズベキスタンの 2009 年第 1 四半期における GDP 成長率は 7.9%であった。鉱工業生産 9.9%増、農業生産は 5.7%増、国家予算の収入は 100.9%の遂行率で、GDP 比 0.4%の額の予算黒字が確保された。

輸出額は 2008 年同期比 6.1%増（2008 年第 1 四半期の輸出額は 26 億 2,000 万ドル、輸入額は 18 億 4,000 万ドル）、貿易収支は、2 億 690 万ドルの黒字となった。

投資は 31.4%増。投資全体の 72.4%が生産施設建設に向けられ、そのうち 33%が近代化の為である。外国投資総額は 4 億 1,800 万ドルになり、投資総額に占めるその比率は 22.3%に達した。その際、直接外国投資額は 3 億 5,650 万ドルで、2.5 倍の増加を示した。

就業者数は昨年に比べ 29 万 3,200 人増加し、約 1,100 万人に達した。

タシケント熱併給発電所に日本の技術

(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) は、タシケント熱併給発電所の近代化用に 3,300 万ドルのグラントを提供する。この資金は定格出力 27MW のガスタービン装置建造モデル案件実施に向けられる。設備納入業者には、東北電力が選ばれた。本案件の総費用は 5,200 万ドル。ガスタービン装置の建造は 2010 年開始の予定。

タシケント熱併給発電所近代化案件の総費用は 1 億 4,200 万ドルで、定格出力各 27MW のガスタービン装置 3 機の建造を予定している。残りの 2 機建造には、国際協力機構 (JICA) のクレジット資金導入が計画されている。

ナヴォイに新企業を設立

「ウズエルテフサノアト (ウズベキスタン電気メーカー協会)」と韓国の投資家による電気製品製造の合弁企業を 2 社設立する。さらに、「ウズベクネフチェ

ガス」と韓国企業によるガス設備製造合弁企業 2 社が設立された。これら合弁企業 4 社は目下整備中の経済特区「ナヴォイ」内に配置される。総費用 6,670 万ドルであるこれら企業の建設は 2009 年下半期に開始する予定。

4 社のうち、合弁企業「UzKor IT Technolog」は LCD モニター製造を専門とし、年間 10 万台のモニターを製造予定。プロジェクト総費用は 700 万ドルである。

合弁企業「KorUz Lighting」は省エネランプを製造する。年間 100 万個の電球を製造予定で、総費用は 470 万ドル。

「ウズベクネフチェガス」が韓国の「Blitix」社と設立する合弁企業は「UB Energy」。同社は自動車ガソリンスタンド設備と自動車用ガスポンペを製造する。プロジェクト費用は約 5,000 万ドル。年間 33 のガソリンスタンド設備と 7 万本のガスポンペを生産予定。

「ウズベクネフチェガス」と韓国の「DongHo ENC Co. Ltd.」の合弁企業「UNG-DONGHO Gascom」は、年間 10 万台の電子式天然ガス計量装置の製造を目指している。プロジェクト費用は 500 万ドル。

ウズベキスタン政府の措置により、2009 年にナヴォイ経済特区には約 40 のプロジェクト実施のため、総額 9 億ドルの外国投資を誘致することができる。これらのプロジェクト枠内で設立された企業が生産能力をフルに発揮した場合、年間 15 億ドル以上の製品が生産されることになる。そのうち、総額 10 億ドルの商品輸出が見込まれている。

2009 年 3 月にソウルで開催された「ナヴォイ経済特区は外国投資家にとって新たな投資機会」会議の結果、オーストリア、ドイツ、インド、イタリア、中国、韓国、UAE、シンガポール企業との間でナヴォイ経済特区内での 33 件のプロジェクト(総額約 6 億ドル)の協定が調印された。

2010 年には実施プロジェクト数は 100~120 件となるはずで、投資誘致総額は 55 億ドルを下回らないであろう。これらプロジェクトの枠内で将来的には総額 75 億~80 億ドル以上の製品を生産し、最大 50 億ドルの商品を輸出できよう。

ナヴォイから新国際便が開設

2009 年 5 月 27 日より、ナヴォイ~デリー、バンコク、ムンバイ方面へ週 3 便ずつの定期運航が始まった。さらに、6 月からはモスクワへ週 2 便の定期貨物便が就航し、2009 年下半期よりドバイ、アルマトイへの便も開始する予定である。

2008 年 8 月に大韓航空がボーイング 747 機で開始したソウル~ナヴォイ~ミラノ双方向便は、週 3 便から 6 便に増やされる。貨物便もソウル~ナヴォイ~

ブリュッセル双方向便が週 6 定期便となった。

エネルギー・セクター

Zeromax GmbH がムバレク・ガス精製工場でプロパン ブタン混合ガス抽出装置建造プロジェクトの実施に着手

装置の運転開始は 2010 年

第 4 四半期に予定されている。建造費は 2 億 2,070 万ドル。資金調達は「ウズベクネフチェガス」の自己資金 3,030 万ドル、ウズベキスタン復興開発基金のクレジット 5,540 万ドル、国内商業銀行のクレジット 5,000 万ドル、中国開発銀行からの借入金 8,500 万ドルにより行われる計画である。

ガスプロムが地質探鉱と 20 本の井戸の掘削を実施

「ガスプロム・ザルベジネフチェガス」のウズベキスタンにおける最初のパイロット的投資案件になったのが、シャフパフティ鉱床（ウスチュルト台地）の追加探鉱である。この案件は成功し、所期の目標が達成された。ガスプロムはウスチュルト石油・ガス含有地域での地質探鉱を実施しており、4 億ドル以上の投資義務を負っている。

2009 年 1 月 1 日現在、国家エネルギーバランスに計上されている石油・ガスの鉱床は 225 ある。そのうち、115 はガス鉱床およびガスコンデンセート鉱床、110 は石油・ガス鉱床、石油・ガスコンデンセート鉱床、石油鉱床である。天然ガス埋蔵量は 116 の鉱床に集中している。そのうち開発中のものが 75 で、残りは探鉱中か、探鉱準備中の段階にある。

2008 年のウズベキスタン国内の天然ガス採掘量は 677 億立 m³を上回った（成長率 3.7%）。2009 年にはウズベキスタンはガス採掘量を 700 億 m³まで増やし、輸出を 8%増の 162 億 m³に伸ばすことを計画している（2008 年の輸出量は 150 億 m³）。2009 年度投資プログラムでは外国投資の誘致により、14 件プロジェクトの実施が予定されている。外国投資総額は 10 億ドルを上回るものと見込まれている。

Zeromax GmbH と「ウズベクネフチェガス」がブハラ ヒワ地域のニシャン・ガスコンデンセート鉱床でガス採掘するため合併企業「クルタクネフチェガス」を設立

ニシャン鉱床は 2008 年末に Zeromax GmbH により発見され、その推定埋蔵量は 70 億 m³オーダー。ライセンスに基づき Zeromax 社は鉱床の開発に 1 億 5,000 万ドルの投資を計画している。同社専門家の試算によると、2012 年末までに合併企業は鉱床の設計生産能力一年間 5 億 m³に達する。

日本の石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) が 2009～2010 年に中央キジルクム砂漠でウラン埋蔵有望エリア 3カ所の地質探鉱を実施予定

ウズベキスタン地質・鉱物資源国家委員会と JOGMEC の間で相応の協定が調印された。この段階での JOGMEC の地質探鉱投資額は 50 万ドルになる。ウズベキスタン側は JOGMEC に、ウランおよびレアメタル鉱床発見が有望な合計 11 のエリアでの地質探鉱作業実施の可能性を検討するよう提案した。

マレーシアの Petronas 社がウスチュルトで活動開始

Petronas 社とウズベキスタン政府は 2008 年 5 月に、ウスチュルト地域のガスコンデンセート鉱床「ウルガ」、「クアヌイシ」、アクチャラク・グループ（「アクチャラク」、「カラチャラク」、「コクチャラク」、「西バルサケルムス」）の開発に関する PS 協定（費用 5 億ドル）に調印した。ウズベキスタン政府と Petronas はまた 2009 年末までに、スルハンダリア州にあるバイスン投資ブロックの石油・ガス鉱床開発に関する PS 協定に調印する計画である。費用 6 億 6,000 万ドルのこの PS 協定は期間 35 年で調印される予定で、本プロジェクト枠によるガスの設計採掘量は 22 億 m³ である。

「ウズベクエネルギー」社が 2009～2011 年にシルダリアとタリマルジャンの 2つの火力発電所の近代化実施を計画

この近代化はそれぞれの発電所に 10MW の膨張タービン発電機を建造することを予定している。総費用 2,000 万ドルの本プロジェクト実施により、年間 1 億 4,000 万 kWh の電力を追加的に生産でき、これらの発電所の電力生産コストを半分以下に下げることができる。プロジェクトの資金調達はイスラム開発銀行のクレジット 1,600 万ドル、「ウズベクエネルギー」の自己資金 400 万ドルで行われる計画である。現在、「ウズベクエネルギー」はイスラム開発銀行のクレジット 6,700 万ドルを利用してインフラ整備案件を 2 つ実施している。2010 年に同社は延長 217km の 500kV 送電線「シルダリア火力発電所～ソグディアナ変電所」線（費用 1 億 1,320 万ドル）の敷設を計画している。

「ウズトランスガス」社が 2010～2011 年に 5カ所の加圧ステーションの近代化を京都議定書 CDM 枠で実施

ウズベキスタン内閣の決定により、5カ所の加圧ステーションのガス漏出を京都議定書の「クリーン開発メカニズム」（CDM）方式で削減する案件が承認された。この案件は、「ウズトランスガス」、ベルギーの Fortis Bank NB、オラン

ダの Fortis Intertrust の間で 2008 年 9 月に調印された排出量削減購入協定の枠で実施される。協定の枠内で加圧ステーションのバルブ類とシーリング材の修理・交換を行うことにより、年間 1,400 万 m³ の天然ガス漏出を削減する。

また、この決定により CDM 方式の実施に関する「調整委員会」が設置された。CDM 方式を利用する優先方向の選定、この方式で実施される案件のための具体的年間プログラムの承認、これらの案件のモニタリング実施などの機能が調整委員会に与えられた。ウズベキスタンにおける CDM 担当国家機関として経済省が任命された。経済省は CDM 案件投資家に温室効果ガス削減排出量を配分する権限を持っている。現在、経済省には 59 の案件申し込みがある。

その他のセクター

ウズベキスタン・韓国の合弁企業「Uz-Shindong Silicon」と「Uz-Kor Silicon」がウズベキスタンの石英とけい岩の鉱床で地質探鉱作業の実施に着手した。ライセンス・エリアでの調査は 3 年間で終了する。地質探鉱投資は各案件につき 150 万ドルである。

単結晶、多結晶のシリコンを製造する両企業の建設は「ナヴォイ」経済特区内で行われる。さらにこれらの企業を基盤にして太陽電池や光電変換モジュールを含むマイクロエレクトロニクス素子を製造することが計画されている。